

平成27年10月27日

地方創生に関する調査特別委員会

阿久根市議会

- 1 会 議 名 地方創生に関する調査特別委員会
- 2 日 時 平成27年10月27日(火) 9時59分開会
13時37分閉会
- 3 場 所 議場
- 4 出席委員 岩崎健二委員長、白石純一副委員長、渡辺久治委員、
濱田洋一委員、西田数市委員、竹原信一委員、
仮屋園一徳委員、竹原恵美委員、野畑直委員、
中面幸人委員、大田重男委員、濱崎國治委員
牟田学委員、濱之上大成委員、山田勝委員
(木下孝行議長)
- 5 事務局職員 議事係長 東 岳也、議事係 大漣 昭裕
- 6 会議に付した事件
・地方創生に関する調査検討
- 7 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

岩崎健二委員長

おはようございます。ただいまから、地方創生に関する調査特別委員会を開会いたします。本日は、地方創生に関し、各委員の皆様から提案された内容について、それぞれ御説明をいただきたいと思っております。議席順に説明いただきますが、全部で9名の方から、25提案がありますので、説明についてはわかりやすく要約してご説明いただきますようお願いいたします。ここで協議のため、休憩に入ります。

（休憩 9：59～10：01）

それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。皆様に協議していただきましたとおり、進行方法につきましては、全員すべてが終わってから質疑を行いたいと思っておりますので、その方法によって進行しますので、よろしくようお願いいたします。

それぞれ自席からで結構ですので、お願いいたします。

それでは、初めに、渡辺久治委員からお願いいたします。

渡辺久治委員

私は、3つの提案をしております。1つは西回り自動車道の北薩地域にサービスエリアの提言、もう1つは阿久根ベッドタウン構想について、もう1つは寺島宗則記念館であります。最初に、西回り自動車道の北薩地域にサービスエリアの提言であります。西回り自動車道が、全線開通するのはもう間違いありません。それはあと10年後は延びるか、縮まるかはわかりませんが、もうこれは確実でありますので、この10年後に何をすることがとても重要になってきます。その場合に、この地域の経済を担っている農産品、水産品、畜産品を全国にどのようにアピールするかが重要になってくると思っています。

そこで、北薩地域のこの阿久根の高速道路上に、地域の農水産、畜産品の物産館を併設した、サービスエリア又はパーキングエリアを提案するものであります。このサービスエリアは高速道路を利用する人はもちろん、高速道路の外の地域の人や、観光客も利用できるハイウェイオアシス風のものであることが望ましいと考えます。なぜかと申しますと、ただの高速道路の物産館であれば、高速道路を通る人しか利用できません。ハイウェイオアシスであれば、地元の人でも利用できますし、地元の観光をした人が高速道路に乗る前にまたここでいろんなものを買っていくということで、地域の人にとっても地域外の、内外の人にとっても利用することができるものであるからであります。聞くところによりますと、サービスエリア、パーキングエリアは高速道路の50kmから100kmに1つが目安だそうであります。南九州西回り自動車道が、全線開通した場合、宮原サービスエリアから、美山パーキングエリアまで今のところトイレの休憩所も未定のようであります。そうであれば、折口のあたりにサービスエリアがあれば、宮原、美山からの距離から見ても適当な位置になるのではないのでしょうか。今のこの道路は、高規格道路ということで、実現するにはさまざまな障壁、課題もあるかと思っておりますが、今から取り組めば、実現の可能性はあると思っております。そして、これはやはり阿久根だけではなくて、出水、長島も連携して北薩地域が一丸となって取り組むことが大切になってくると思っています。そういう意味で折口の辺りであれば、場所としては、長島からは一番近いところが折口の辺りであります。そして、出水から見ても出水から見れば一番近いところがやはり折口の辺りで、3市で取り組む場合としてはやはり折口の辺りが一番適当ではないかというふうに考えております。ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

続きまして、阿久根ベッドタウン構想について説明いたします。西回り自動車道が開通する約10年後、阿久根から鹿児島市内の車の所要時間は約1時間くらいになるのでしょうか、

そしてまだ先にはなりませんけれども、北薩横断道路が開通しますと、溝辺の空港までの所要時間は1時間を切ることも十分に考えられます。そういう意味で、阿久根は近い将来、たとえば鳥栖と同じように、屈指の交通の要衝となることが考えられます。これはもう今からどうこう運動するというのではなくて、確実にそうなることはもう確実であります。そうであれば、ある程度、経済的に豊かな人たちであれば、鹿児島市内まで、あるいは空港周辺まで十分な距離圏内となることを意味します。それに加えて、皆さん天気予報を見る人は良くわかると思うんですけど、毎日見てみますと、夏場ですね、阿久根の気温は鹿児島市内に比べたら3度ほど低いんです。これは私もずっと見てみますけど、確実です。であれば、阿久根は夏場は鹿児島市内よりもかなり涼しいということになります。これは住む状況にとっては、都会の人から見れば十分魅力的なところであるというふうに考えます。そういうことで、夏場は涼しいし、灰も降りません。風光明媚で魚もうまい、おまけに空港も近い。ここらへんをアピールして、阿久根ベッドタウン構想というものを提案するものであります。阿久根に住んでくれそうな人に土地の取得のしやすさ、土地、建物の取得税、固定資産税の優遇制度を今から準備してですね、検討して、そしてアピールすれば十分実現も可能性があるのではないかと思いますけど、検討のほど、よろしく願いいたします。

続きまして、寺島宗則記念館であります。高速道路がつながる10年後を見据えて、観光の目玉としてある程度予算を切り込んで、全国にアピールできるものが必要になってくると思います。その中で、考えた時に、本当に全国にアピールできるものは何かあるだろうかと思った時に、寺島宗則という人物の名前の大きさが出てくると思います。で、寺島宗則記念館を提案するものであります。皆さんご存知のように、そこに書いてあるように、寺島宗則が、維新に成した役割は大変なものであります。彼はもともと医者であり、学者であり、そしてすぐれた技術者でもあります。こんな魅力に富んだ偉人が阿久根市内の出身であるのに利用しない手はないのではないのでしょうか。県でも、NHKの大河ドラマの主人公として考えてるようですが、十分に視聴率の取れる人物であると考えます。そして、彼が幼少時代を過ごした旧家がまだ脇本に残っております。私は先日、寺島宗則の流れをくむ方にお話をさせていただいたんですけど、実は今後も住居として活用するために改修を予定しているということでもあります。ですからこの辺はどうなるかわかりませんが、これは市としてどういうふうに取り組むかという姿勢が大事になってくると思います。この前ちょっと改修をするために台所とか風呂場とか壊したみたいなんですけど、だいぶシロアリとかおあって、苦慮されているようです。ですので、話をもっていくのであれば、今現在早急に持っていく方がいいのではないかと考えております。皆さまのご検討をよろしく願いいたします。以上です、終わります。

岩崎健二委員長

次に濱田洋一委員の提案をお願いいたします。

濱田洋一委員

私の方より、笑顔あふれる阿久根市、まち、ひと、しごと総合戦略の提案として、私の提案内容をお話いたします。皆さんもご承知のとおり阿久根市を取り巻く社会情勢としまして再生整備基本計画の中にもありますように、大きく分けて3つあります。まず初めに、少子高齢化と過疎化の進行、2つ目に本市の基幹産業である第1次産業の担い手、後継者不足の深刻な状況。3つ目に交通体系の整備など課題が山積していますが、私は現在人口減少の時代であることから、若い世代の就労、結婚、子育て希望の実現が将来の位置づけとして大切であると認識しております。また、阿久根市のみならず、地方郡部の大半の市町村においても同じような状況ではなかろうかと思っております。阿久根市の年齢別人口推移におきましては、平成27年9月末現在で2万1,975人であり、平成52年、2040年には1万3,590人と見込まれております。その中で、現在の20代から40代の人口は約5,700人今から25年度の2040年には約3,500人となり、実に39%の減となる見込みであります。そこで、阿久根市においても、出会いサポート、婚活支援事業を推進して

いくべきであると思っております。このことの先進地である南さつま市においては、婚活支援を積極的に推進されており、平成22年度より南さつま花婿・花嫁きもいりどん事業をスタートされており、具体的には、市が結婚希望者の世話役として、きもいりどんを委嘱し、現在20数名で組織されているとのこと。事業内容としましては、出会いサポート、結婚講座、結婚相談、情報提供などということですが、行政主体でこれらやるなかでは全国でも数少ない事業と言えるようでございます。本市におきましても、先ほど人口推移で述べましたように20代から40代の方々のうち、未婚者である方は少なくないと思われ。私の近所にお住いの40代前後の男性の方、複数人に話を聞いてみますと、結婚はしたいが出会いの場がないということが多く聞かれました。地元で働き、生活をしている若者に、出会いの場の提供をいろんな形で企画してやるのが、人口減少を少しでも和らげることではなかろうかと考えております。今後20年後、30年後の人口ビジョンを見据えた提案を将来の地域活性化のために、出会いサポート、婚活支援事業を推進していくことが必要であると思っております。自然の景観の美しさと、食の宝庫であるこの阿久根市を、市外、県外の方々にも発信しながら、今後具体的に、この事業実施に向けて検討されれば大変ありがたいというふうに思っております。私の提案は以上でございます。

岩崎健二委員長

次に、竹原信一委員の提案をお願いいたします。

竹原信一委員

5ページ、書いてございますが、まずこれを言う前にですね、実は先週の水曜日、厚生労働省があることを認めました。それは、年金を運用してるところがこの7月から9月までの3か月間で10兆円の運用損を出したということです。そして、これを取り戻そうと、今後もっと危険度の高い、ジャンク債に投資をすることを可能にしたということです。すなわち、日本国民の年金は将来ありません。これは、現実です。ニュースにもこれは出ないわけですね。このことを、この国の状況というのをほんとに知ることが先決だと思います。それではちょっと読みます。人口減少は子供を産み育てる世代のゆとりのなさ、経済的困窮が原因。これは都市と地方に共通です。たとえばフランスはそれに取り組んだことから人口問題が改善しました。日本人には集団的によそ者、新参者、若輩者をいじめ、排除する習慣があります。日本人はあらゆる分野においてムラ社会をつくる。権威を振りかざし新規参入の可能性を押しつぶすという古典的な癖がある。事実、ノーベル賞受賞者は日本を飛び出した人ばかり、このような日本だから人が育たない。新参者の競争を許さない不公正な国民的特性が長年積み重なり、今の結果となっています。阿久根でも、政治家を含め、役所や古い体質の事業者たちが裏で手を握り、全ての事業を握っている。彼らは常にお金を自分たちのところで回そうとする。自主的な努力や公正な競争を避けて、権威的に貧しい人や若者を安く使って利己的な経済競争に利用する。だから発展しない。意見は、お金や地位名声のない若者が生涯を暮らす場所として阿久根を選ぶようにする。公正な環境の中、新参者が古い人たちと対等な競争が出来るようになるまで生活を守る。人を育てるのには時間がかかります。一時的アイデアではなく、安定的にお金をかける必要があります。これに抵抗する心の貧困の方が課題です。箱物、見せかけで交流人口や金を寄せると発想ではなく、心理的な豊かさのある阿久根へと進化させるべきです。また、行政の無自覚やうそは致命的。市民は生き方を見つめなおさなければいけません。行政は貧しい市民を税や安い賃金で追い立てるのはなく、新規参入者や、貧しい人々の暮らし改善にもっと直接的、そして本気で取り組めば真の安心と信頼が得られる。本物の行政が行われる阿久根に本物の人間が集まります。下手な鉄砲たくさん打てば、流れ弾で市民が死んでしまうと、こういうことです。

岩崎健二委員長

次に、仮屋園一徳委員の提案をお願いします。

仮屋園一徳委員

私は、県道脇本赤瀬川線を2車線改良し、沿線に道の駅をつくるということを提案します。

現状と課題ですが、脇本赤瀬川線は改良が遅れておりますが、以前389号線との取り合いと申しますか、それで遅れた、現状としては、元々県道であった寺下石油から槇之浦西公民館までが県道であったものがそのときに市道になっております。それと折口三文字折多校下が県道であったものが市道にその時点で格下げをされております。しかしながら、両箇所とも未改良のまま市道になり、現在もそのままであります。389号線については、非常に、長島を含め、活発な路線として現在機能をしているわけですが、その見返りとなった脇本赤瀬川線についてはほとんど改良はされておられません。阿久根市としては当初、阿久根東郷線から改修を行うということで、阿久根東郷線に2市町は力を注がれましたし、その後については下東郷阿久根線、市街地から山下、尾崎、弓木野については5年前ほどに開通しておりますけれども、その後については県道改良はほとんどおこなわれておられません。なんで脇本赤瀬川線を言いますかという、42キロの海岸線を活かしていくためには、やはりこの路線のインフラ整備なくしては、私は阿久根の発展はないと思っております。2番目の海岸に隣接した路線であり、景観はもとより、名所、旧跡を結ぶ。肥薩おれんじ鉄道は、折口駅が隣接し、将来は牛之浜駅まで結ぶということで、やはりおれんじ鉄道と並行した道路の整備、インフラ整備が必要ではないかと思っております。西回り自動車道は、阿久根北インターが近く、改良されれば当路線を利用することで観光の時間短縮ができ、目的地での時間利用ができる利点です。沿線の土地利用が拡大する、住宅地とか介護施設等には景観がいいので最高ではないかと思っております。小漣、八郷などの景観、名所などが生かせる。現在、小漣、八郷については改良が進み、出水市の辺田地区でも用地買収で遅れておりますけれども、近日、改良されると、景観としては最高の場所ではないかと思っております。当路線が整備されることで、長島方面の客を呼び込めること、また港から戸柱、倉津、佐潟、高之口への連絡道路の期待も膨らむ、事業拡大と沿線の土地利用が可能となる。改良後は、道の駅を提案しますけれども、市かJA等での建設が望ましく、返済は利用組合の使用料をあてていったらどうかと思っております。新鮮な地元の農産物、魚介類の販売はもちろん現地で客に食べてもらうことで、交流人口が増えるのではないかと思っております。隣接する市町の食材等も販売できるようにする。規模としては大型バスが2～30台は利用できるような駐車場が望ましく、景観としては最高ですので、当初でそういった場所を確保して進めていったらどうかと思っております、以上です。

岩崎健二委員長

次に、竹原恵美委員の提案をお願いいたします。

竹原恵美委員

私の一つ目の提案です。市民が市政の重要な決定プロセスにかかわる仕組みで、大きな事業をつくり上げていく。市民が責任と役割を担う仕組みをつくるということです。これは三重県の松坂市で行われて、成果をあげている仕組みです。提案内容は、小学校区で住民協議会を組織し、各地域の問題解決に対して、住民の話によって、方向性、会議によって方向性を決定していく。市の政策においては、政策の提案を事前に決定前に、シンポジウム形式で住民説明会を行い、多様な意見を出席者全員が認知、提案する。住民同士で意見の収束に向かうよう丁寧に説明、会議を行っていく。最終決定は市長が責任ある決定を行う、というものです。現状ですが、住民が直接、市政の決定プロセスにかかわることができず、決定に至った情報も十分に得られないため、決定事項を住民が自分たちのものとして、受け取らない、当事者意識がない。政策決定前には市長の諮問機関である委員会やパブリックコメントなどが開かれていますが、住民意思の確認に、実質的な効果が得られていないのが現実だと思います。

次の2ページをご覧ください。市政の決定プロセス、現状です。これはほとんどの全国この状態だろうと思われま。形式的に進められた委員会で構成された市長の諮問機関で会議を行う。会議の最終には、執行部の提案や一部の代表者の意見を答申として合意、そして終了。パブリックコメントでほとんど出ない、少ない意見が出されるのみ、それが議会へ議案として提案、可決。市報や住民説明会などで市民への広報を行う。この時点ではもう変える

ことはできない状態で広報が行われていく。そこに市民が関わっていない状態です。これらのこの現状の特徴ですが、各種団体長などの委員は住民意思を酌んでいない、住民意思を拾って会議に出ているわけではありませんので、酌んでいない。特定の代表者の意見をまとめた答申はアリバイづくりにしかならない。パブリックコメントは市民を巻き込めておらず、実質の効果が出ていない。住民説明会を事項、内容が決定してから開き、市民は決定に関わっていない、関われない。市民からは決定事項に対するあきらめ、愚痴、評論が出て、当事者意識は全くない。これを改善した内容の提案が右側です。学校区を単位とした住民協議会を設置します。学校区である理由は、既存の区ではないところで話し合いを持つことがそれぞれの関わりを今までと変えることとなります。これが一つの重要なポイントです。市長が各地域で意見交換を開き、未決定の政策内容を、情報を、複数のシミュレーションを提示して、市民の意見を受ける。市民同士がお互いの意見を認め合う。批判同士ではなくて、認め合うこと。会議を作っていく必要はあります。そして、全く情報を与えない中で会議を行うのではなく、市はある程度複数選択ができる、選択が出来るだけの情報を与えて会議を行うことです。そして、市長、執行部が責任ある意見集約を行い、以後、議会提案として進んでいきます。この特徴です。住民参加で政策を決定すること。住民がシミュレーションのメリットデメリットなどの情報をわかること。住民同士がお互いの多様な意見を認め合い、会の中で意見の集約が図られる、これが大事なことです。先の市民交流センターでナスカが行った委員会、ワークショップではこのような収束が行われたようですが、残念ながら、その出席者がこの提案とは違うポイントではあります。ただ、会議に対して大事なことは、それぞれがどこを出して、どこを引っ込めるかが参加者が認識して優先順位を決めていく、集団で決めていくというポイントです。政策決定に住民が参加することで、当事者意識が生まれ、住民の責任と役割が果たされます。前のページ、1ページ目です。期待される効果です。住民がその責任と役割を持つこと。市民が市政に対して傍観者、評論家ではなく、当事者として役割を担っていきます。災害時には市職員だけで十分に対応できる可能性はまず、たとえばですけれども、災害時などが起こった場合、職員だけで十分対応できる可能性などは低く、負担も大きい。こういう場合でもこの会議を行ってつくり上げていけば、市民の自主性を育てることで住民が各地域の特性に合った活動で命や被害を小さくすることができるという三重県の成功例を紹介しました。ほかには、水俣のもやい館、近くで水俣のもやい館はつくる時に市民全員に意見を取りました。その意見を集約することで作り上げ、市民の施設に対する愛情、関わりが深いと聞いております。今回、阿久根市民交流センターにスタートから求められた作業はこのような市民に対して内容を問うていく。そして市民がどんどん要望をたて続けるのではなく、どこを出して、どこを引っ込めるか、市民が理解していく。そして後も可愛がっていくという仕組みを持っていくことが必要ではなかったかと思えます。これから先も丁寧な住民、市民に説明会、内容の詰まった説明会が必要だと考えます。一つ目以上です。

2つ目、ページ、9ページです。プロのおもてなし講座をプロ向けと一般向けに開く提案です。現状として、私の感じていることですが、阿久根市内の店舗の店員の接客能力は高いとは感じられません、低いと思えます。愛想はない、笑顔はない、知り合いだけにはベタベタして、会話を長くする。客全般に目を配っているという感じは少ないとみられます。この講座をすることで期待しますのは、接客能力を上げ、どのプロの店舗に行ってもおもてなし、接客が感じられる地域にする。これからはまち全体で心地のいい地域にしようと考えているのであればやはり一般向け、民宿も含めて一般の人がすれ違っても心地のいい地域にしていく必要があるかと思えます。そのためにプロ向けと一般向けという提案をしました。以上です。

次、10ページです。鹿児島学校応援ボランティアを多く募り、学校で活用してもらおう。もう、10年以上、鹿児島県は鹿児島学校応援団ボランティアを募集して、学校の活動に行っていたいただいています。ただ、とても広まっていけない状態です。学校の現状は、先生方の

仕事量の多いその弊害があり、教育上弊害が起こっていることは知られています。それでいて外部の応援を受けにくい環境もあります。保護者を含めて、地域の大人が学校や教育環境の充実に関心が薄い状態です。このボランティア活動を使うことで期待しますのは、学校環境、教育の環境の充実、先生方の労働環境の改善、生徒にとって教育環境が全般に充実すること。保護者を含み、地域の大人が子供の教育を守る気持ちをもっと啓発していくことにつながると考えます。私が教育委員会の課長に聞きましたのは、その方が他の離島の方の学校におられたときに、学校が学力向上のためにドリルを毎日行っている。そこにボランティアが採点に来ていただいて、その結果によってその子の出来上がりによって、次のドリルを与えて、それを毎日繰り返す。この取り組みで成果を上げた学校を経験しているとのことでした。ちょっと広めて、もっと広めていくべき事業だと思います。

次の事業です。学校で先生OBなどのボランティアで学習を教えること。アイデアは学校の先生、OB、阿久根市内に多くおられますが、学習塾の経験者などの、学習のボランティアを募って、勉強を学童などで教える。宿題を終わらせて遊ぶように促す。それから帰るように促す。学童に今、出している子供たちというのは、それぞれが自由に勉強したり遊んだりしています。家庭に帰っては、仕事から帰った親が、その残った時間で勉強させている、生活を一生懸命回しているという、時間に追われながら回しているという現状もあります。子供たちにとっては学童が幼稚園のように感じていて、小学校の中学年以上には魅力が見られず、家で一人である、かぎっ子になっているという現状もあります。学童を一つの学習の場、一つの学習の場として魅力をあげていくことを期待しています。これで期待されることは、保護者と児童の生活の時間を守る、残してあげる。児童の学習時間の確保、癖つけ、保護者への安心感、学童に預けていることで遊んで帰ってくる、そして生活に追われることにはなかなか学習能力の向上に安心感を持ってませんので、このことを（聴取不能）ことで保護者への安心感を与える。児童の学力維持、向上を求めて、結果として求められると考えております。

次の事業です。学校で授業のない日に学校の先生やOB、学習塾経験者など社会人の学習ボランティア授業、教養授業を行うことです。これは例にあるのは伊佐市、参考にしましたのは伊佐市教育委員会が2014年1月から中学生の学習向上、時間確保を目的として、土曜ばかり基礎講座を開設しています。講師は、元校長先生、ほかボランティアです。毎週土曜日、希望者を対象に国語と算数、英語の基礎を教えています。そして同じく、伊佐の教育委員会、土曜いきいき講座。これは名前がまた別にあるんですけども、基礎、これは小学生中学生、また別にも小学生向けにももって教養講座を開いています。国としましては推進しているボランティア、土曜日ボランティア応援団というのも国は推進していますが、各地域によって、各市によって取り組みはさまざま、阿久根においては実行はされていません。阿久根市内でそれぞれ塾に通ってる、それぞれ塾に通ってる子は、かなり多いと私は小学校に行って会話しますけれども、ほとんどの子は複数、1週間に3つ、それ以上ないし通ってる子はとても多いですが、通えない子もいる。今の学習の問題というのは、親の収入と学力がほぼ同じように動いているというところにあるのも一つの日本の問題だと言われています。このアイデアに対して、事業に対して期待をするのは阿久根市の子供たちの学力の向上。塾に通えない子供にも学校以外の学習機会をつくることです。

次のご提案です。固定資産、課税明細書に資産ごとの税相当額を表記する、記載することです。現状は一つ一つ個人に対する請求額は出ていますけれども、各土地、各建物に対しての固定資産税相当額が出してありません、請求するときには各資産の合計額に対して、免額なりあるものですから、最終額だけを提示するという意味もわかるんですけども、各一つの金額は提示はしていません。評価額が提示してあるだけです。資産というのは土地などは期待される効果を見ていただきますと、一番下ですけども、土地の有効活用、土地の売買がより活発になり、新たな価値を持つ必要がある、価値を持つ地域が創造される必要がある。新しく開発した駅周りの土地が売買されないという地域があります。これから活性化

していこう、向上していこう、まちをつくっていこうという地域はなかなか売れないという地区の問題で、その所有者が裕福であったら別に売り買いする必要はない、興味が全くない。または、一つの項目に対してどれだけの課税がされているか、認識がないという点があります。現状の真ん中ですけれども、現在有効な資産が有効活用されていない、有効であろう、ほかの人からとってみればあそこを活かした方がいいのになと思うところが、売買されるところにない、そのまま寝かせておけばいいという所有者がそのままにしている。そのためには、これが生活の負担になっている、課税は毎年どんだけかかっているというのを本人に対しても明確にする、土地を活かしていく、家を活かしていくということを進める必要が、認識をまず与える必要があると思います。売買が進まない理由に所有者が資産を評価できないということが一因と言われています。以上です。ということで、評価額、一つ一つ表示することもその一つの要因になるかと思ひ提案します。

次です、小中学生にライフプランと資産形成についての課外授業を行い、家庭や家族の必要性、経済をコントロールできる自信を育てる。人生を俯瞰できる知識、能力を付けること。阿久根市だけではなく少子高齢化、日本経済の縮小化には日本全体の問題がありますけれども、添付書類、添付資料の中で南日本新聞27年8月28日。なぜ、未婚、晩婚なのか、これには経済的余裕のなさが最多としてアンケートが取られています。資料は18ページ、19ページの資料、やはり南日本新聞の資料で8月24日のもの。子供を希望しないという夫婦、子供を希望せずが10%を超えている。この理由を答えた、子供を希望しないと答えた人に子供観を尋ねたところ、自由な時間が持てなくなるが最多、感じていることは特になく、出費がかさむ。個人の生活を充実させたいという感覚も強いですし、経済的理由で結婚をしないという方向にもありますが、そこのところはページ17ページをご覧ください。これは地域社会ライフプラン協会が出しています。夫婦子供ありの家庭ではどういうことが起きるか。夫婦であればそういう形なんですけれども、シングルに対して、現役の場合、突然のケガや病気により働けなくなり収入源が絶たれた場合、貯蓄、保険などで生活を維持するための準備が必要。つまりこういうことにシングルでは追っかけてしまう。パートナーを見つけるよりも今、自分の生活を保つことに一生懸命になってしまう。退職後、自分が老後を迎えたあとは頼りになるのは自分ひとり。したがって介護が必要になった場合や入院した場合などに介護ヘルパーや付添いが必要になるため、加齢とともに起こる様々な問題に対して、解決策を立て、準備を考える必要があります。これがライフプランとしては経済的にシングルではこういうことが起こります。しかし、子供たちがここまでわかっているかということ、そんな俯瞰をする力はありません。現状のところですけれども、子供を持つその原因、子供を産む必要が低いライフスタイルがあります。個人の要求、ニーズの低さ、家族を持つ、パートナーを持つ、子供を持つ、そのニーズの低さ、理解は子供には出来ないことです。経済的将来の不安から結婚、出産をためらう、実際あきらめるということも多く言われています。しかし、現状的には日本人は世界一、高額な預金を手にして死ぬ。つまり、人生を通した経済的計画を立てることができないために、経済不安を死ぬまで持っており、死ぬときに使い切ることができずのため続ける。これが世界的には、ライフプラン、ライフプランの形成ができる国は最後に使い切って、残りの人生を考えて、そして社会保障を理解して、どれだけもらえるか、どれだけ不足するから、今所有であとどのくらいの命を想定したときに生きていけるか、家族構成を考える。そのようにして、家族を増やすこと、若い時から家族を持つことの大事さ。そしてプランを持って経済活動を行う、最終使うまでの見越して、心が裕福な状態で亡くなっていくことを成功している国は多くあるようです。日本の中では、三重県が「みえ 子供すまいるねっと」、15ページ真ん中くらいにあるんですけれども、「みえ 子供すまいるねっと」というものを作っています、子供たちが各年代で、ライフプランを立てられるように、妊娠出産に対する正しい知識、(聴取不能)に対してもシングルではどういう生活があって、最終どういいうふうになっていくかというのも話を提案していきます。小中学生には赤ちゃんに触れ合うこと、家族を持つこと、命の大切さなどを教えていま

す。男性というより家族のプランは女性にリミットがあるということがとても問題というか現実なんですけれども、年齢別16ページに年齢別にみる自然妊娠率は25歳までは25から30%あります、30代、25から30%。だけれども35歳以上になると18%、40歳以上5%、45歳以上1%。最近不妊治療に対しての補助が年齢制限も実際ありますし、それに対して産むなということかという高齢の出産を求める方の声もありますが、現実的にはこんな状態です。若いときに生活を充実させることがどれだけ大事であるか、ということ若い子供のうちから理解する必要があります。15ページの下の方に紹介しているんですけれども、NHKのスーパープレゼンテーション、メグ・ジェイ、という人の20代にしておくべきこと。これは特に若い子供たちに見せてもいただきたい内容ですが、アメリカの臨床心理学者が言いますのは、今の若い子供たちは昔の人と違って、30歳は昔の20歳よね、30歳までは遊んでいいわよね、自由な生活をしていいわよねという感覚があるけれども、人生を決めてしまうような出来事の80%が35歳までに起こる、それ以降の収入も家族計画も35歳までに80%が事象は起こってしまう。だから若いうち、20代のうちに充実した計画で、充実した人生をつくっていく、形成していくこと。それに対する知識をわたしていくことがとても大事であると言っています。もし、20代の頭をなでながら人生を始めるには後10年あるといたら何が起こるでしょうか、全くなにも起こりません。その人から切迫感と大志を奪うだけで何も起こりませんというふうに訴えています。ですから私が提案したのは、子供たちにライフプランを計画できること。経済力をコントロールできる自信を育てる。死ぬときにたくさんのお金を持って死ぬ、あくせくして、あくせく感で、追い詰められた感覚で最終を迎えるような計画ではなくて、自分が生活をコントロールしているという自信をもって組み立てていく、それこそが結婚を促す、子供をつくるという知識が得られることにつながると思います。今の提案は以上です。

次の提案です。各国でメジャーなSNS、中国ではウェイボー、中国版ツイッターです。などに阿久根の旅行記など、観光に対して、観光スポットを載せていくことを提案しました。他の地域では聞かれたことですが、その市の中、地域に住んでいる海外からの研修生に対してその地域の阿久根なら阿久根のいい点、不便なところ、観光スポットなどを聞いて、改善や海外への広報を行っていただくことをしているようです。海外では、海外ではというか、外国に旅行しようとする人はインターネットをよく上手に使っている。そしてSNSにも旅行した先の感覚、よかったこともあれば悪かったところもはっきり書いていくことがあります。それを共有していきます。各国には、メジャーなSNSがありますので、そこに阿久根の旅行記、観光スポットなどその国の言葉で載せていくことが1つ有効かと思います。これは経営コンサルタントから聞いた話でした。以上です。

次の提案に行きます。市民の満足度、重要度の調査を行って、市民の選択による予算配分を行う事です。市の事業に対して市民参画が現状不足してはいます。不足していることが考えられますが、市民には市民の感覚では、知らないうちに市の事業は決まっていく、参画しても何も変わらないなど、参画に対して後ろ向きの意見もうちの市民の中にもあります。ここに対して、一部の予算、たとえば500万、1,000万、予算配分に市民の意見を直接酌み取っていくことで、予算を配分するという、予算配分を行うという事業を実際神奈川の小田原市など行っていることを提案したものです。期待される効果としては、税金の使い道に参画、市民が直接参加することで、市政への興味を持ってもらう。まちづくりの主役は市民であることに立ち返って、市民の参画、共同社会における役割分担を担っていただく。行政の取り組みに対する市民の満足度と重要度を調査することで、市は市民の意識と乖離しないように市の側にも意識が生まれるというものです。事業の例です。下の事業費のところなんですけれども、小田原市では、人口20万で市民満足度調査を経費は59万917円、分析料178万5,000円、経費は237万5,917円かけて、市民の選択による予算配分システムをしました。意識調査をしてどういうところにお金を配分するか、そして予算配分をして実行していただく、その満足度を図る。その繰り返しを行う。そして参画をして

いただく、そして事業の成果に対しても責任を持っていただくものです。このような満足度意識調査は、小田原市、長野県須坂市、横浜市、宮城県白石市、神戸市、富山の黒部市など多く行われています。事業の内容は22ページ23ページ、25ページまで添付しました、ご確認ください。すべての事業、以上です。

岩崎健二委員長

次に、野畑委員の提案をお願いいたします。

野畑直委員

私はですね、阿久根大島の観光開発事業ということで、現状阿久根市の観光の目玉の一つであると思っておりますけれども、九州電力からの送電がなくて、特に夏場の宿泊施設で現代の若者は寄り付かないと、いうふうなこと聞いております。ここに市でも飲料水確保のためのボーリング調査等も行ったようではございますけれども、塩水で使えないということで、電気にしても発電機を利用しているという状況でありますので、ここに書いてありますとおり、倉津から大島に送電できる鉄塔を立てればその距離は十分満足できると思うので、鉄塔です。あるいは海底ケーブルを建設して、キャンプ場や宿泊施設を整備する必要があると考えております。現状飲料水は船で運んでおりますけれども、同時に送電、水道配管ができればと考えております。期待される効果としては、阿久根市は新幹線の駅もなく陸の孤島と言われておりますので、宿泊施設を整備することによって阿久根市に立ち寄ってもらって、宿泊をしていただく、というふうに考えております。現状、阿久根市を訪れた人に阿久根市に来てどこに行けばいいんですかと、聞かれたときに、どこということをお答えられないという人が多い状況でありますので、もう少し大きな目玉となるように、阿久根大島をバンガローでも宿泊施設等でも整備していったらいいと考えております、以上です。

岩崎健二委員長

次に、中面幸人委員の提案をお願いいたします。

中面幸人委員

今回、私は4件提案をしております。まず初めに資料の27ページになります。一応あの、提案事業名でございますが、これは勝手につけたのでですね、まず、農業継承支援事業と子供子育て支援事業ということで、これは合わせたやつでございます。要約しますとですね、阿久根の基幹産業、いわゆる1次産業の後継者対策を拡充することによって、阿久根の人口減少対策につなげていく施策ということであります。わかりやすくするために1次産業の中で農業に特化して説明をいたします。それでは現状と課題について説明をいたします。現状と課題、阿久根市の基幹産業である1次産業の農業従事者は、営農の種類にもよりますが所得が安定していない。経営規模を拡充するにも基盤整備、環境整備等が整っていない。子供たちを1次産業の所得だけでは大学まで出せない、そのために若い世代が都会へ流出してしまう。このような理由等で若い世代の1次産業への後継者が育たない、後継者不足になってしまう。そして高齢化が進み、耕作放棄地が増えていく、行政側でも移住定住促進の施策も行っておりますけど、市外からの移住定住促進にも受け入れ態勢等がまだ不十分で限度がある。ならば、地元で生まれた若い人たちを定住をさせ、子育て等の負担を軽減するために、子育て支援の拡充を図り、阿久根で生まれ育った子供たちに、将来は阿久根に帰ってきてもらう。そうすることによって、人口の維持が出来、拡大につながっていくのではないかと思います。次に、事業のアイデア等の説明でございますが、まず、農業継承支援事業ということでございますけれども、所得の向上と安定を図り、後継者不足を解消するために、農家の経営体制を変える。内容といたしまして、集落営農組織、または受託組合組織を組織営農にする。校区単位あるいは地区単位で組織し、単農家はその組織に入る。今後は単農家体制では営農できなくなる恐れがある。その組織を主導していく若者のために、子供子育て支援事業といたしまして、子育て支援制度を拡充する。内容といたしまして、市単独の奨学金制度を拡充する、奨学基金をつくるということでございます。奨学金制度を受け、高校、大学卒業後に阿久根に帰ってきて、定住する人は奨学金返済を免除する、奨学金返済の免除、これは

いろいろ考え方があるかと思えます。効果といたしまして、まず農業継承支援事業でございますが、農業機械の共同利用や農作業の受委託によって、作業能率の向上や生産コストの低減が図られ、所得の向上につながる。高齢農家や、後継ぎ不在農家の農作業の軽減、農地の保全、耕作放棄地の解消、担い手確保の役割を果たす。集落一帯の取り組みによって、親睦が深まり、集落生活環境の改善につながっていく。次の子供子育て支援事業でございますが、上記事業の推進により、所得の向上や生活環境の改善が図られれば、若い世代への就農意欲が高まり、地元への定住促進につながる。市独自の奨学金制度によって、育った子供たちが阿久根の将来を担ってくれることによって、人口に維持、そして拡大につながる。そしてまちが若返ってくる。こういう事業はですね、今現在営農している70代前半の人たちがまだ元気なうちにですね、早く私は取り組むべきではないかと思っております。

2件目になります、28ページになります。提案事業名ということでございますけれども、CAS冷凍の導入促進でございます。1回私が一般質問で質問した案件でございますが、まず、現状と課題といたしまして、現在阿久根は魚が獲れない、魚価の低迷。阿久根のイベント時のうに井、伊勢えび祭りのとき天候不順や漁獲量によって足りない時がある。農産物はその年によって天候によって左右され所得が不安定。豊作のときは値が下落します。農産物も海産物も市場相場によっては原価割れをいたします。阿久根の新鮮な素材も流通に時間がかかる。このような現状課題においてCAS冷凍の導入推進をお願いしたいということでございます。その効果といたしまして、獲れたての鮮度、旨みを長期に維持できる。季節や漁獲量に影響されない。在庫調整で安定した価格で出荷できます。そして、所得の安定につながる。というふうになると思えます。

続きまして、3件目でございますが、29ページにあります。提案事業として、特徴ある食材を活かすということであります。現在の現状と課題といたしまして、海の幸を利用した食材は、全国それぞれ特色をアピールして展開をしております。山の幸を利用した特徴的な食材は少ないのではないかと考えておりますので、全国に先駆けたいから阿久根のジビエをどのようにして活かしていくか。先日も鹿の解体とですね、その料理の方法の勉強会があったところでもございます。その事業のアイデア等でございますが、ジビエを阿久根の特産品として商品化する。ジビエ料理を食べられるレストランをつくる。効果といたしまして、農家の鳥獣被害対策にもつながる。阿久根の特産品として地元産業の活性化につなげる。

最後になりますが、30ページになります。提案事業ということで、交流人口対策ということでございます。年間、現状と課題として阿久根は年間通しての遊び場が少ないというふう感じております。事業アイデア等としてですね、釣り堀をつくる。これについては阿久根の大きな事業を取り組んでおります、うみ・まち・にぎわい再生事業の中にもうたわれており、現在、産業厚生委員会でも所管調査として取り上げている案件でもあります。釣り堀をつくる。効果といたしまして、食の阿久根だけではなく、海を利用したレジャー施設として客を呼び込む。そして年間通してリピーター増につなげる。そして、安いときはですね、獲れた魚はその釣り堀に入れるというふうにすれば、魚価の所得向上にもつながっていくんじゃないかというふうに思います。以上で終わります。

岩崎健二委員長

ここで暫時休憩します。

(休憩 11:05～11:17)

岩崎健二委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。次に、大田重男委員の発言を許可します。

大田重男委員

提案事業ということでですね、道の駅阿久根をですね、どうしてもなんとかあそこを利用したいという気持ちで出しました。阿久根市でですね、書いてあるとおりA-Zを除いて一

番の集客力の高いのは道の駅阿久根であろうと私は思っております。普通平日でも昼前後は駐車場はいっぱいです。土日はものすごく駐車場というのが入れないような感じもあります。特に5月の連休、夏の盆、冬の正月前後ですね、あのへんの時は駐車場に入りきれないような状況にもあります。そこにですね、そういったたくさん人が来るところをですね、やっぱり道の駅というのはある程度富裕層の人が良く集まるところです。お金を捨てに来るようなところでもあるんですよ。だから阿久根市としてはそういう人たちから、言葉は汚いけどお金をすくい上げる、そういった政策がないような気がします。今、一番ですね、1次産業の振興という阿久根市でもよく言ってるんですけど、1次産業の生産者農家ですね、収益がですね、上がるような政策がないような気がするんですよ。私はこの場ですね、この場所に物産館を作ってですね、生産者が直売できるような収益の上がるようなものを作ってほしい。そういう思いで今度は出したんです。それでまた、漁業の関係もですけど、ここで午前中ですね、ある一部の人たちは魚を持ってくるんですけど、午前中で完売です。この前漁師の人とも話したんですけど、華アジですね、あれは今、ブランド化されないような感じなんです。ものすごい華アジを獲りに行っても、全く値がしないんだと、漁師の人たちは、今の現状では華アジは獲っても仲買者の人たちが儲かってるような現状だと、そういう話も聞いています。だからこういう場所ですね、やっぱり生産者、漁師の方はですね、直売できてですね、利益が上がるような工夫をしてほしいんですよ。特にあそこの駐車場の、私はしょっちゅうあそこを、目の前を通るもんだからつくづく感じます。あそこに空き地があるんですよね、広い空き地が。あそこをなんとかですね、利用する手があると思うんです。草もぼうぼう、そんな感じです。もったいないような気がするんです。どうしてもやっぱりあそこの場所を阿久根の南の玄関口、あるいはアンテナショップとして私は利用すべきだと思っています。今の現状では道の駅阿久根、いろんなたくさんのお客さんが来ても、それを救えるのはキャパシティというのかな、それが不足しているように思うんです。あの辺の道の駅阿久根をなんとかうまく活用してほしい。そういう思いで出しました、以上です。

岩崎健二委員長

次に、山田勝委員の提案をお願いします。

山田勝委員

山田勝です、提案をします。私は現状の阿久根市を把握して、手を伸ばせば出来ることから1つずつしていくことが結果として地方創生になるのではないかとということで、身の周りのあることをまとめてみました。まず、サッカーによるまちづくりです。現在阿久根市のサッカークラブからですね、5人のJリーガーが誕生してまして、すでに活躍する日本代表選手候補や天皇杯に出場するような選手もおります。そのようなJリーガーが育つようなサッカークラブが地元で活躍している。それからJリーガーたちのキャンプの手伝いや阿久根の少年サッカーの大会に取り組むことにより、サッカーのまちとして市の認識度が高まるとともに交流人口の増加にもつながると、こういうことであります。今度、12月冬休みには約150人ぐらいのですね、合宿があるそうで、宿泊地をどうするかということで現在は困っている状況ですので阿久根市が一丸となってこの問題に取り組んでくれることが大きな創生につながると思っております。

次に、毎朝のラジオ体操の取り組みによる健康増進ということで提案をしておりますが、これは私は前々から思っておったことであります。ご存じのとおり阿久根市は高齢化が大変進んでおりますし、そしてまた、高齢化による医療費の、医療費も大変高額になっております。私は健康づくりの一環として、各集落でいきいきクラブの方々による、毎朝ラジオ体操に取り組むことが必要ではないかと思っております。子供のラジオ体操と同じように参加するとともにスタンプを押して、参加者が良好な上位者を表彰し記念品を贈ることにより参加意欲を持たせます。これによって一つは朝晩ですね、市民が往来する、そのことによって健康を守れる。これは本当にですね、経費は掛からずして阿久根市の活性化に創生につながるというふうに思っておりますのでよろしく願いをいたします。

次に、タケノコのまちづくりであります。阿久根市にはですね、もちろんタケノコの栽培面積、タケノコ山もたくさんあります。阿久根市には日本一のタケノコ缶詰の製造工場があります。タケノコの収穫時期になるとですね、家族でタケノコ掘りに出かける姿も見られますし、タケノコが大きな収入源ともなっております。竹林の整備伐採で収入につながっている人も大変たくさんいらっしゃいます。市民ぐるみでこのタケノコのまちづくりに取り組むことでジビエで有名な鳥獣害対策についてももっと宣伝する。それから猟期が始まるときに出陣式を行うことで、これが報道されれば阿久根市のPR効果にもつながる。これらの取り組みを多くの市民が共有することにより、またタケノコのまちとしての市の認識が高まるとともに、市民の所得向上にもつながるし、阿久根市の活性化にもつながると信じております。以上であります、よろしくお願ひします。

岩崎健二委員長

各委員からの説明が終わりました。委員の皆様から質疑がありましたらお願いいたしますが、質疑につきましては発表順にそれぞれ指名をして、質疑のある方はお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

仮屋園一徳委員

まずですね、渡辺久治委員のサービスエリアの件についてですけど、私もこれについてはですね、本当に、出水にも阿久根にもということにはならないと思います。しかし、現状としてはですね、ことし、来年野田まで高尾野までというふうに通して行くわけですが、これについてはやっぱり出水、長島、阿久根一緒になった活動が必要じゃないかと思ひますので、これについてはあまり時期を置かずさっそく今からでもそういった運動を展開すべきじゃないかと思ひます、以上です。質問じゃない、意見です。

濱崎國治委員

質問をいたします。サービスエリアをつくるのは私も効果的だと思ひています。ここに宮原のサービスエリアのこともありますが、あれは高速道路を利用される方が、いわゆる利用されているということなんですね。ですから阿久根でもどっか大川の見晴らしがいいところにサービスエリアを作ったらという構想があるようでもありますけれども、それについては国土交通省じゃなくして、地元がやっぱりせないかんということのようでもあります。ですから私は出入り口にですね、サービスエリア的な物産館ではなく、道路を利用される鹿児島からずっとつながればですね、そこを利用される方はかなり増えてくると思ひますので、やはりサービスエリア、いわゆる沿線道路沿いのサービスエリアの方が私はいいんじゃないかなあと思ひています。と言ひますのは、たとえば、これは阿久根の折口あたりにとということであれば、折口を降りたところということになるんでしょうか。いわゆる、阿久根北インターですか、そこを降りたところにという発想なんんでしょうか。

渡辺久治委員

ハイウェイオアシス風というのは、高速道路の通る人も下からも入れると、両方入れるという意味です。一般道からも入れるし、高速道路からも入れるということです。

岩崎健二委員長

渡辺委員、高速道路に接してつくるのか、あるいは高速道路を降りたところにつくるのかということで、今の渡辺委員の発言は高速道路に接したところで、一般道路からも入れる高速道路からも入れる場所にしたいということですか。

渡辺久治委員

そうです。そういうことです。私もハイウェイオアシスというのがどういうものなのか実際、私も見てないんですけども、そういうものがあるということは聞いております。

白石純一委員

ハイウェイオアシスについては、ちょっと検討したというか、前の仕事でいろいろしたことがあるので少しだけ私の知ってる範囲でお答えさせていただきます。基本的には高速に設けられるサービスエリアなんですけど、これを今までは高速の方々だけのためのものだったも

のを規制を緩和して、高速外からも入れるようにしたものです。したがって、場所的には今までのサービスエリアのように高速に面したところにあると、それをその裏の方に新たな駐車場を作って高速以外の方も利用できるということにしたものです。ただし、今回の場合は、高規格道路ですか、ということで高速ではないので自由に料金を払わないでもインターからも入れるので、必ずしも高速からあるいは下からという区別は、理由は今までのそういうハイウェイオアシスというのを設けたのは、高速に入るためにはお金がかかるということだったのでハイウェイオアシスという形にしたのだと思います。その様態はどのようにでもなるかとは思いますが、趣旨はもちろん、高速から利用する人もそうでない人も自由に使える物産館のようなものということは大変検討すべきだと思います。それともう1点、ごめんなさい。私は折口につくるということも非常に意義があることだろうし、濱崎議員がおっしゃったように大川あたりの海が見えるところを通るということも聞いておりますので、その場所、つまり今のおそらく道の駅に近いような場所になるかと思うんですけども、そうしたときに今の道の駅との関連、高速というのはどうしても素通りされてしまうこともある、あるいはそのハイウェイオアシスなりサービスエリアに立ち寄ったとしても阿久根には降りていただけないということになりますので今後はやはり3号線を観光道路としての整備をしながら道の駅、既存の道の駅との関連性も考えながら設けていかなきゃいけないのかなというふうには思っております、以上です。

濱崎國治委員

すみません、ちょっと質問したかったものですから、このですね、折口あたりとして、場所としては、いわゆる長島、出水、両市町の同意を得られやすいという話もありましたが、どうしてもですね、その立地場所で、たとえば阿久根に立地するとなれば、なかなか出水の同意が得られるかとかですね、長島の同意はもちろん得られるかもしれませんが、これは出水の同意をですね、得られるのは難しいと思いますので、やるとすればやっぱりですね、阿久根がやっぱり、阿久根の地域内にするんであったらですね、阿久根がやっぱり主導権を握るといって、阿久根がやるんだと、そういう心構えでないと私は成功しないような気もいたします。

岩崎健二委員長

きょうは結論までは書かないで、皆さんのそれぞれの意見だけを聞いて。

[発言する者あり]

きょうは、皆さんのそれぞれの今の発表に対して、皆さんの意見を聞いて、結論はまた次の段階にまた持ち越したいと思いますがいかがですか。

それでいいですか、とりあえず、皆さんの意見、質疑を受けて、発表者の意見も聞く、そしてまた質疑をする皆さんの意見も聞くということで、きょうのところはそこまでで止めたと思いますので、お願いいたします。

濱崎國治委員

これは、結論が出るもんなんですか。

岩崎健二委員長

委員会として、最終的に、市への提言というのはまとめて、出しますので、委員会として地方創生委員会として、市の執行部に対して議会としての提案を最終的にはやりたいと思います。

濱崎國治委員

ということは、これについては提言しない、あるいはこれについては提言するということを区分けするということで理解していいですかね。

岩崎健二委員長

最終的にはそうなると思います。

山田勝委員

休憩してください。

岩崎健二委員長

休憩します。

(休憩 11:34～11:35)

岩崎健二委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

濱崎委員は、ほかにはありませんか。

濱崎國治委員

先ほど言いましたけれども、渡辺委員の、このハイウェイオアシス風のって提言は非常に、私はこの創生戦略としては、いいというふうに理解したうえで、ここに一丸となって北薩地域は一丸となってってなったらなかなかむずかしいのではないかなということを上申したかったので、その辺についてちょっとお伺いいたします。

渡辺久治委員

もちろんこれは、私も阿久根が主となっていかなければならないと思っています。ただ、やはりこの北薩地域にサービスエリアをつくるとなれば、出水、阿久根はもうやっぱりその賛成をもらわなければいけません。ですからやっぱり出水、長島の意向に添いやすいところに提案するのがいいと思います。折口であれば、まず長島は賛成してくれると、どちらかという賛成してくれると思います。出水も一番北のほうですから、折口が、それも賛成してくれやすいかなということで、阿久根がイニシアチブをとって、やっていくという意味で、賛成を得てもらいたいという意味であります。以上です。

中面幸人委員

関連してですけどもですね、どこに設置する。これは相当違ってくると思うんですよ、たとえば、以前は湯浦のあそこにあったあれは道の駅としてですよ、相当繁盛したのが、道路がこうつながったおかげで、減ってきている。そういう位置については相当検討しなければならないということとですね、今度ですね、私が聞くところによれば、今あるサービスエリアとかというところはですね、たとえば南国殖産とか、岩崎産業とかそういう大きいところがやっているとお聞きするんですけど、今さっきから話をするようにですね、本当は阿久根市が主体となってやるのであればですよ、その辺あたりもちゃんとして議会でですね、調査する必要があると思いますので、その辺を含めて調査をお願いしたいと思いますのでどうでしょう。

岩崎委員長

今、どうでしょうと言われても。

中面幸人委員

では、もう少し説明します。私が言いたいのはですね、確かに阿久根の特産品等をですね、阿久根市が阿久根市の業者でということと、1つのエリアを営業していくという考え方で捉えていけばですよ、そういうのがはたしてできるのかですね、私が聞くところによれば、たとえば九州自動車道のたとえばあいうエリアなんかは大きいところがやっているとお聞きしますので、もし自分たちでするのであればそういうところから、調べる必要があるのではないかなというふうに思うその提案でございます。

白石純一委員

中面委員のおっしゃるように、高速自動車会社がサービスエリアを設ける場合はやはり入札になるので、どうしても資本能力のあるところ、実績のあるところが落札してしまうということに、当然なりうりますので、やはりこれは阿久根市で、やるのであれば、やはりたとえば道の駅のような形ですね、オール阿久根で経営すると、あるいは阿久根の事業者が当然品物を入れて、そこにお金が落ちるといような仕組みを当然考えていかなければいけないんだろうなと思います。

西田数市委員

渡辺委員のハイウェイオアシスに対して、プラスアルファで、ドッグランを設置してはどうかと思っておりますが、意見です。

岩崎健二委員長

今、どのくらいの規模、大きさを想定するかということですかね。今の西田委員の質問は、規模とか大きさをどの程度考えているのかという意見ですか、質問ですか。

西田数市委員

テニスコート2面くらいの広さが。

岩崎健二委員長

わかりました。おそらくですね、その渡辺委員もそこまで大きさとか、規模とかというもののまでの計画性じゃなくて、こういうものをつくったらどうでしょうかということの御意見だろうと思っておりますが、渡辺委員それでいいですか。

山田勝委員

非常に皆さん方が言われるのはもうすごい創生になると思います。ところが、今白石委員が言われたようにですね、自動車、高速自動車じゃないんですよ、これは自動車専用道路で、全線開通すれば、ただになりますし、上ったり、下ったりこれもただですよ。だから簡単に出たり入ったりもできるどんからん、ただなんです。だからたとえばもしできるとしたらですね、美山にあって、最低の用を足すくらいの部分はもうすでに建設省がね、こっで決めてると思う。だからただ、こっで決めてると思いますよ、ただですね、皆さん方が思って、運動されるのは本当にいいことですからそれはやっていいと思います。ただ、そういうことだったらということを入れたらと、いっせっぺきばったばっかいははだるってそこは1つの私の意見として。

岩崎健二委員長

市の創生本部のほうも似たようなものが出ているみたいですので、またそれらを含めて、出た時点で個々には判断をしていきたいと思っております。そういうことで御理解いただければと思います。今、山田委員がおっしゃったとおり、そういうものが出ているようですので、そこらも含めて、今後また皆で検討していけばと思いますので、よろしく願いいたします。ほかにありませんか。渡辺委員のことについてはよろしいですか。

白石純一委員

寺島宗則記念館についてですけども、渡辺委員のご提案は、今の旧家ですか、彼の生家、育った家、こちらを記念館にすることだと思っておりますけども、それがかなわない場合は別の土地でもいいというお考えでしょうか。

渡辺久治委員

今の旧家をと、私の意図は今の旧家をとということです。旧家であれば今の旧家は実はですね、だいぶ傷んでいるみたいです。先ほど申しましたように、シロアリとかもいてですね、もう住んでおられる人もどうしようかなというふうに迷っておられることも聞いております。そこで、実際はあの建物がものにならなくても、梁1本、柱1本残っておればそれによって改修すれば旧家になるわけです。だからその辺で旧家として、今の家を残して寺島宗則記念館として、してもらいたいということでございます。でも、どうしても本人の意向でだめであればそれはまた違う形でということもやぶさかではありません。以上です。

岩崎健二委員長

よろしいですか。

[「はい」と発言あり。]

なければ次に、濱田洋一委員の出会いサポート事業について御質問はありませんか。

竹原恵美委員

お尋ねします。事業の内容を婚活については、おっしゃる通りだと思っておりますけれども、もう1つ掘り下げて、阿久根には男性がいらして、よそから女性を求めるんですけども、ど

うもその当たりが低いというか、その理由としては、そのどうも一緒にいる時間が楽しいというつくり方が各それぞれが、自由に全然何も教えないで、ぽんと出して、はずれるというような気はするんですね。そこに対してはそのほかの例も調べていらっしゃるよその例も調べているようなので、たとえば事前に男性の魅力をアップするようなものをしたという話を御存知ないですか。もう1つ掘り下げるところまでではないですか。

濱田洋一委員

今の竹原委員のご質問ですが、具体的に掘り下げてまではいない現状ですけど、きもいりどん事業という中でですね、出会いサポート、結婚講座、結婚相談というのが大きな柱となって活動されているんですが、出会いサポートというのは独自のイベントや各種団体主催のイベントと連携を図るといようなことですね、そして結婚講座にあたっては、婚活にあたり自分磨きとのセミナーの開催といようなことであることと、相談員はですね、独身男女の会員登録者に対しての引き合わせの場を設定する、具体的に成功へと結びつけると、だから会員にまず登録をすすめて、その中でいろいろ条件に合ったといいますか、いうこともやられているような状況であります。ただ、それがどういった成婚率ですとか、そういうのまではちょっと把握していないんですけど、今のところは、提案といことでしたので、とりあえず、はい、こういう状況でした。

竹原恵美委員

先の阿久根で行われた婚活で2組ほどといような話は聞きました。追加して、私が提案したいなとお話を聞いて思いましたのは、男性をより魅力的に集団の中でより魅力的にしていく、実直で、素朴でっていうのだけで、その個性だけで押していくのではやっぱり短時間にアピールといのはむずかしいし、その場に連れていくのであれば、その人たちをもうちょっと見方といか、自身を出させる力もあっていただいて、連れていかないと当たりが少なんじゃないかなといふうに感じたところでした。追加して提案したいなと思います。

濱田洋一委員

今ありましたように、本当に私も同感でありまして、やはり、短時間の中でのイベントとなろうかと思いますが、やはり自分磨きのセミナー等の開催ですとか、顔が赤くなったとしてもですね、自分の思いを伝えられるといような流れに持って行けるように私ども既婚者のほうも、後方支援をしながらできたらいいのかなといふうに思っております。以上でございます。

岩崎健二委員長

よろしいですか。

[「はい」と発言あり。]

次に、竹原信一委員の提案について質問はありませんか。

竹原恵美委員

内容を読まれましたけど、つまり具体的にはどういことでしょうか。

岩崎健二委員長

ちょっと、何ページとかありますか。

竹原恵美委員

5ページが提案内容なんですけれども、先ほど文章を読まれましたが、理念といふうには感じましたけど、つまり具体的にはどういことでしょうか。

竹原信一委員

あの、大体こねで動く社会といふには、公正さはないわけですよ。それと、誰にも開かれた1つのルールで動くよな状態、たとえばそうですね、あたりまえのことをあたりまえにやる状態、ここに書いてありますよね、若者にちゃんと金を使うと、日本は一番教育に金を使っていない国でございます。アメリカだったりすると、大学、スタンフォード大学なんかは大学から大学院まで全部奨学金で動くとか、そういったところもあるわけですよ、阿久根の場合だったら奨学金おそらく市役所職員の子弟が多く受けているのではないのでしょうか。

それから、返さなくてもいいという仕組みもあるかもしれない。そういったことをですね、一般の市民はあまり知らないわけですね、それから、格差などについても拓殖大学の研究によると、阿久根は日本で4番目に格差が大きいところです。そういったところも、よくわかっていない。自分たち自身のことを理解できていないということですね、そしてそういったことを隠しちゃう、オープンにしてこなかったことを、それからあなたの論にもありますけれども、物事を決める時にいつも同じメンバーが決めてしまう。今、事業仕訳というのを始めた構想日本というところが始めたのがですね、たとえばそうですね無作為抽出で市民代表というかなそういったいろんな会合に委員を選ぶというやり方をしているいい成果も出ております。つまり公正さです。いろんな事業に許認可する時も、職員の知り合いが、あったり、議員を通じて応援もらおうと権限と言うかな、特権というか、そういったものを得やすいという事実でございます。そういったことを変えないかんといい。

岩崎健二委員長

竹原委員、今、地方創生が国が進めている最終目標は魅力あふれる地方を創生する。これが最終目標ということに、なっております、その魅力ある地方創生を行うために、どういう阿久根市は事業を行っていくのかという具体的にですね、こういうことを行いたい。というのを提案をお願いしているということなんですが。

竹原信一委員

はい、まさにそこるところなんですよね、今までやってきたこと、やろうやろう、とにかく金を使う方法を探すというスタンスが間違っているということなんです。私が言いたいのは、何かたとえば今までおっしゃいましたほかにもありますけれども、阿久根駅でもいいですよ、どんと金を使って派手にやれば一時的に金が集まるという発想ではだめだということですね。むしろ、金を持たない人のために、あるいは一番厳しい暮らしをしている人のためにそこを注目するすればですね、安心の暮らしが展開するというふうにといいことございませう。そしたら落ちてみじめな、阿久根にみじめな思いをしなくても済むんだということになれば、自然と人間は集まります。そういう話でございます。

竹原恵美委員

お尋ねしたのは、理念や推測論ではなくて、事業をどのような事業を、どのような事業を提案しているのか私はお聞きしたんです。理念を提案してくださいとはお伝えしていません。事業内容です。

竹原信一委員

あなたのおっしゃるそのスタンスが間違いであるということでもあります。わかります。きちっとやるべきことをやってきてやればですね、人は集まる。この国もそうですけど、阿久根市も同じ体質です。体質を変えましょうという話です。事業のやり方もむだ金を使うな、やってみればいいと話ではないということなんです。

岩崎健二委員長

竹原信一委員、その具体的にどういうふうに進めたいのかというのを出してほしいということなんですが。

竹原信一委員

現実、起こっていること、格差が広がっていること、それから事業も一部の人たちに握られてしまうこと、そのところをもう1回見直さなければいかんと、そこから始めなきゃいかん、足元を固めなければ、何をやっても失敗しますよ、そこから始めるべきだということなんです。

竹原恵美委員

ここの共通の会議の、委員会の元なんですけども、理念があつて、今戦略として、事業提案を確認しているところですよ。委員長にお伺いします。

岩崎健二委員長

国の地方創生の法律に基づいて、最終的には魅力ある地方を創生するというのが最終目標

ですので、これに向けて各地域が、各地域にあった事業展開を求められているものと理解しています。

[竹原恵美委員「はい、ありがとうございます。」と発言あり。]

いいですか。

[竹原恵美委員「はい、結構です。」と発言あり。]

ほかにはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

なければ次に仮屋園一徳委員の提案について、質問を受けます。

白石純一委員

具体的にどのあたりを想定されているということはございますでしょうか。

岩崎健二委員長

この路線の、今、脇本、赤瀬川線のどこの地域とかいう特定の何かありますかということですが。

仮屋園一徳委員

あの特定のというよりも、全線ということですよ。何でもかと言いますと、改修率がまだ20%にも満たないということですので、全線開通しないと私の言う目的は達成されないと考えてます。

白石純一委員

改良についてはわかりました。道の駅というのは具体的にどの辺りというのは、想定はございますでしょうか。

仮屋園一徳委員

先ほども言いましたように、とにかく私としては海が見えるところです。1つの考え方としてですね、阿久根駅も非常によかったんですけど、ちょうど新港ができて関係で、駅が見えない、少々上げても見えにくい、そういったことではなくて、せっかく道の駅をつくるんだったら、ちょっとやっぱり大川の道の駅みたいに広々と海が見えるというのが私の考えている道の駅です。

岩崎健二委員長

よろしいですか。

[白石純一委員「はい」と発言あり。]

ほかにはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

なければ、次に竹原恵美委員の提案について質問を受けます。

ありませんか。

濱崎國治委員

先ほどもちょっと、休憩時間にお尋ねしたんですが、13ページの固定資産課税明細書、資産ごとの課税相当額を表示するということですが、これは単純にこれからしますと、評価額に1.4%を掛ければ、税額が出るんですが、ただ、税額を出していないのはたぶん評価額が集まって合計しないとそれから控除額がありますので、30万とか、あるいは60万とか、ちょっと忘れちゃったけど、控除額の関係で総額に対して私は税額を表示してあると理解しているんですが、それからしますと、この内容からすれば、1.4%を掛ければ、単純なもし、税を、税相当とすればわかるんじゃないかなという気がしますけれども。

竹原恵美委員

内容的にはそのとおりなんです。ただ、各自がリアル感を持って、その30万、控除というのは別途の話ですから、その各自が自分の持っているところの、その課税、全体額の合計だけを見て、阿久根市はよく言う、阿久根市は固定資産が高っかねって言うんですよ。ただ1戸、1戸に対して明確な金額を提示されてないところで、ぶっこみ論しかできない。だからもう1歩進んで、1つ1つ項目に計算式を入れた、これには幾ら、これには幾ら、その

税額、トータルで控除という話はもう別途として、その方の持ったものですから、別途として、1戸、1戸のその税額を明確にすることが、もう1つこれはもう自分から離そうかな、誰か買ってこないかなってそういうところに話が持って行けるのではないかと思った次第です。ネットなんかで、固定資産税について調べますと、表記はどれも地域によってばらばらのようで、1戸、1戸課税をして、トータルの請求額、1戸、1戸の税額を出したあとに、トータルは合わないんだけど、その方の支払うべき額というをトータルで出している地域もあります。以上です。

岩崎健二委員長

よろしいですか。

[濱崎國治委員「はい」と発言あり。]

ほかにありませんか。

[「なし」と発言あり。]

なければ、野畑委員の提案について質問をお願いいたします。

中面幸人委員

もう、たぶんですね、野畑委員が出すと思ったので、私も出さなかったんですけど、地方創生のですね、一応提案として、やっぱりほかの自治体にはない、大島ですね、ぜひこれをやっぱり、ここらでやっぱりこうけりをつけなければならぬというような気がします。併せてですね、私は今は夏場だけですので、併せて周年観光地として使えるようなですね、そういう取り組みを載せていったらどうかなというふうに思います。以上です。

岩崎健二委員

意見ということでよろしいですか。

[中面幸人委員「意見です。」と発言あり。]

白石純一委員

私も野畑委員の提案に大変賛同し、また、今中面委員がおっしゃったことにも、賛同し、加えて、通年、そして大島だけではなくてですね、その隣の桑島、これも活用できないか、そして桑島と阿久根大島の内側の水面、海面では、サンゴ礁も大変育っているということで、そういった海中も含めた観光資源の活用を、大島を含めた形でですね、ぜひ、そして先日的一般質問でも申し上げましたけれども、自然資源だけではなくて、阿久根の歴史、資源もこれにからめてPRしていくべきだという意見を提案させていただきたいと思いません。

岩崎健二委員長

今、野畑委員の提案に対して、中面委員、白石委員がいろんな桑島とか、周年事業とか、あるいはほかの海洋レジャースポーツ等々を含めて、一緒に提案したらどうかということで、理解してよろしいですかね。

山田勝委員

私はね、大変いい提案だと思ってますよ、しかしながら、今、たとえば見方を変えてですね、やらないといけないと思うのは、たとえば、今、阿久根の歴史の話をされますけどね、阿久根はそもそも海賊村なんですよね、そもそも。だから、桑島もですね、桑島になんで大蛇がいると言ったか、あそこは拠点だったから、誰も寄り付かないように大蛇がいると村人には言っとった場所なんです、だからそういうのも含めてですね、一緒にもう一遍見直さないかんとということと1つ、もう私は長い間、大島にこれでもか、これでもか、これでもかという金をかけてきましたので、阿久根市はですね、当初南国交通があそこを借りてやっとなんかのをですね、南国交通から取り上げたわけですよ、阿久根市は、取り上げて言う住民のものすごいこの声が多くて。しかし、結果として私は取り上げないほうがよかったと今は思ってますけど、それはしょんなかことですよ。だから見方を変えてですね、金のかからないような1つの観光開発もしてほしいなあと思っていますよ。

岩崎健二委員長

意見ということでよろしいですか。

[山田勝委員「はい、意見です。」と発言あり。]

ほかにはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

なければ、午前の審議を一時中止し、休憩いたします。午後は1時から開会いたします。

(休憩 12:02:~13:00)

岩崎委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。次に、中面幸人委員の提案について質問をお願いします。

ありませんか。

牟田学委員

農業継承支援事業でありますけれども、今のこの阿久根市の現状ですね、担い手と言いますか、所管課もある程度、把握をしていると思いますけれども、今の現状として、私の集落のことを言いますと、ソラマメ、実エンドウの産地であります。それでも、私がずっと見てきた中でですね、ただ1軒だけですね、後継者がいるのは。あとは今の息子たちのことも見ますけれども、多分誰もいないと思います。今やっている方たちがほとんどがもう70代、いつも言ってるんですけども、あと10年すればあそこの豆団地はなくなるんじゃないかなあという心配もしております。そういった中で、農業継承とっていつぺんですね、阿久根市全体をやっぱり把握する必要があるんじゃないかなと、農政課もいろいろ調べていると思いますけれども、実際に私の区であったり、多分あと10年すれば誰もいないという状態であります。そこ辺りをもうちょっといろいろ把握していけばいいのかなというふうに思います。

岩崎委員長

意見でいいですか。

[牟田学委員「はい」と発言あり。]

ほかに、ありませんか。

山田勝委員

農業がですね、すたれるちゅうことは非常に重大な話ですよ、これはね。今、牟田委員が言うように、あと10年すれば誰がずっとよという気持ちもありますよ。しかしながら、そういう中で、その、んならそいでよかかってなったときにですね、やはり次の世代にバトンタッチする体制をつくるためには、やっぱりね、楽しい農業を組み立ててくれないかなと思います。だから私は、たとえば農業支援事業、集落が一体に取り組みによって親睦が生まれ、やはりな、イベントをせないかな。イベントを。収穫祭とかですね、そういうイベントを組み立てることが、せめて楽しい時間をつくる。それと今ですね、皆さん、先日脇本の体育祭がありましたけどね、人は集まるんですよ、それなりに、集まってきますよ。何かこの前食の祭典があり、ここにも人が集まりました。何か組み立てればね、集まります。ですから、何かやはりその組み立ててな、その人を集めて、そこで楽しかったというものをつくらないと、なかなか若者は、次の世代の人は育たないと思いますよ。ですから、中面委員にですね、ぜひ、そういうところも考えて、何かイベントを組み立ててほしいというような気がいたします。

中面幸人委員

今、山田委員が言われたようにですね、今回私は地元で育った若い人たちが残ってくれる子供たちを、また帰って来るといような提案でございますけど、今、海は海、農業は農家でですね、民泊等もやっておりますのでですね、やっぱり、よそからの人間もですね、そういうふういろんなイベントをする楽しいイベントをすることによって、阿久根の特色を活

かしたそういうイベントをすることによってですね、よそから来た、民泊に来てそういう体験する人が、阿久根はいいところだから、ぜひそういうのが条件が合えば阿久根に住んでみたい、農業をしてみたいという人も出てくると思いますのでですね、私もそういうふうに、行政側もですね、民泊とか、いろんなイベントもすべきじゃないかと思いますが、そういうところも訴えていけばいいかなというふうに私も思っております。

岩崎委員長

ほかにありませんか。

竹原恵美委員

子供子育て支援事業の中の奨学金制度のことなんですけども、これ自体、高校、大学卒業後に阿久根に帰って来て、それは免除するというのがあります。阿久根にとってよそで高校、大学を卒業した、これ後が直後なのか、それとも経験を積んでその後なのかのところは、阿久根がどんな人材に帰って来てほしいかということにも関わりがあるので、この免除を考えるとときには期間の設定も1つ検討課題としてあっていいのではないかと思います。いかがでしょうか。

中面幸人委員

やはり、奨学金制度を受けて、学校を卒業した子供たちがですね、必ずやっぱり阿久根に帰って来るというふうに仕向けるわけですね、そこで私はたとえば、ふつうは奨学金というのは、大学を終われば何年か、20年とかかけてやっぱり返納していくわけですから、これをたとえば将来阿久根にですね、そういう制度を使って学校を出て、阿久根に帰って来る人であればその奨学金制度をですね、100%返納しなくていいということも大変かもしれないけど、そういう何らかのですね形で、必ずやっぱり帰って来るように仕向ける制度づくりをしてもらいたいというふうに考えております。

岩崎委員長

中面委員、今、竹原委員の意見はですね、大学を卒業して即帰って来た人であるのか、あるいは、そのどっかの会社に勤務して、その経験を踏んだ人でもいいんですかという。そういうことですね。

[竹原恵美委員「はい」と発言あり。]

中面幸人委員

ですね、やっぱり結論はやっぱり仮に何年後か経験を積んで帰って来ても、帰って来るというそういう本当条件付きではですね、そういう制度の取り組みであればいいと思います。やっぱりもう使っても奨学金制度を使って、帰って来られなければ当然返さなければいけないわけですからね。だからできるだけそういうふうに制度を使ったら阿久根に帰って来れるという形では私はいいと思いますけどね。

山田勝委員

私、今の話を聞いてってですね、例えば高校を卒業して、大学を卒業してですね、すぐ帰って来れない人も沢山おりますよ。しかしながら、奨学金の返済期間というのは何年なんですか。

中面幸人委員

私の知るのところでは、20年ぐらいの返済じゃないかと思っております。

山田勝委員

そうであったらですね、阿久根に帰って来るまでは、20年ぐらいのうちの毎年払っておいてですね、阿久根に帰ってきたとたんから払わなくてもいいですよという制度をつくったらですね、帰って来る人も多いかもしれないし、非常に簡単な説明で、やり方でいいというふうに思いますので、これは考え方としてね、提案させていただきます。

岩崎委員長

意見ということでいいですね。

[山田勝委員「はい、いいですよ」と発言あり。]

白石純一委員

私もその制度には大変賛成です。そして皆さんもご存じかと思いますが、長島長が最近ブリ奨学金という制度を立ち上げようとしてまして、これはその大学卒業後すぐに帰ってきた者、あるいは何年後というのはちょっと私も不勉強ですけども、帰って来て10年その長島に定住すれば確か全額免除というようなシステムだったかと思いますが、その辺も十分参考にできるのではないかと思います。

牟田学委員

この奨学金制度に関してはですね、今年度から始まるのか、鹿児島県がですね、奨学金を出して、大学を終わって帰って来たら免除をするという。鹿児島県に帰って来たらもうその制度が多分もう始まると思います。そして、奨学金制度に関しては点数ですね、入試の時の、3段階あってですね、それぞれに奨学金の返済とかというのが調べたらあります。今度鹿児島県がするのがそれであって、所得制限が450万以下だったかな、年収。それとあと点数ですね、それによって大学を卒業して帰って来たらそれを、奨学金を免除するというのをことしから始めるみたいな、

[来年からと発言する者あり。]

来年からだそうです。そういう制度もあるということです。

岩崎委員長

事業の中身といいますか、その執行するためのいろんなものについてはまた行政と相談しながら行政が考えてくると思いますので、細かい部分についてはですね、ここで議論はあまりしなくてもいいのではと思いますので、よろしくお願いします。

濱崎國治委員

提案者にお伺いしたいんですが、この奨学金制度なんですが、高校、大学を卒業後に阿久根に帰って来て定住する人ということとしてあるんですが、たとえば地元の高校を卒業して定住される方をどういうふうに考えるべきか、その辺はどうお考えですか。

中面幸人委員

あくまでもですね、私はたとえば、この提案は一番目に農業継承支援事業とからませてるんですけど、あくまでも、私の考え方は今の営農の趣旨と違いますけども、あくまでも、仮に農業を営農就農している人たちがですね、なかなか子供たちを高校まで出しても、大学までは出せないというそういう所得だと思うんですよ。農業に従事している方はですね、そのために、そのための制度でありますからですね、別に地元の高校を出るのに対してもその奨学金制度は利用できるようにすれば。結局、農業に従事するためですのでですね。従事できて、子供を学校に出せるという制度ですから、別に地元の学校に出してもその奨学金制度を利用できるというようにしたほうがいいと思います。

岩崎委員長

それでは中面委員、阿久根に帰って来てという文言があるんですが、特段帰って来てということになると、一たん外に出た人が帰って来るという文言になってしまうので、帰って来てじゃなくて、阿久根に定住する人とはという捉え方でもいいということですか。

[中面幸人委員「そうです」と発言あり。]

濱崎國治委員

考え方としては、1次産業だけではなくて、卒業後に阿久根に定住するという考え方なんでしょうか。

[中面幸人委員「いいんじゃないですか」と発言あり。]

いいんじゃないですかでなくて、そういう提案なんですかということです。

中面幸人委員

私はここに阿久根の1次産業が農業、漁業、林業って言うております。それでなかなかですね、後継者がいないということですのでですね、後継者育成のためにもですね、1次産業じゃなく農業でも、漁業でもいいんです。あとは加工業もありますけど、なんせ阿久根に子供たち

が定住する制度ですね、そういう制度づくりという捉え方でいいと思います。

岩崎委員長

よろしいでしょうか。

[濱崎國治委員「はい」と呼ぶ。]

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

次に、大田重男委員の提案について皆さんの御意見を伺います。

山田勝委員

かねてですね、私は道の駅あくねについては非常に興味を持ってますし、これはもう非常に長い間、阿久根市のですね情報発信の土地として、アンテナショップとしてですね、重要な役割を果たしております。ところが、今、できた頃はですね、ほかに比べるものがなかったもんですからね、それでよかったんですが、たとえば今は、長島のだんだん市場とかですね、それから江口浜荘ですか、そういうところが規模の大きなところがあってですね、このままじゃもったいなかねという気持ちの中でね、実は話をするんですけど、まず、私は、阿久根の道の駅はですね、あの食堂の部分を廃止にしたほうがいいと思ってます。そうしないとな、売り場面積が少ない。どうしても食堂の部分を、食堂を残さないかとやれば別に2階にでも上げてですねして、1階はやはり売り場面積を広げてほしいという気がします。この件についてはどうですか。

大田重男委員

それは同じような意見なんです。実際下のほうですね、物産を売るスペース、ものすごく少なくて、また、下のあの食堂、レストラン部分ですか、あそこはものすごく狭いんですよ。余裕があれば2階のほうにレストランをですね、持って行っていただければ、それはいいんだろうと思うけど、それは費用の関係もあると思うんですけどね。ただ、私はそこに道の駅のあるところだけじゃないんですよ、物産がこうしてるのは。南部地区にやっぱり、やがて大川のあの辺にもインターができます。それと、また寄り道風景街道ですか、そういったので阿久根の海岸線は選ばれているんですよ。

[山田勝委員「私の質問に1つ1つ」と発言あり。]

山田委員のおっしゃるとおり、そういったものも私はあろうかと思っています。前にはそういう話もしました。以上です。

山田勝委員

要するにですね、今、あの（提案書の）黒塗りの部分はですね、私は駐車場をちょっと拡充しないといけないという気がします。駐車場を拡充してですね、そして先ほどいいました食堂部分の売り場面積に加えますとね、ちょっとまた違った形で充実してくると思うんですがいかがですか。

大田重男委員

別に反対するものではありません。できたらあその空き地の部分も駐車場として、利用できるんじゃないかと私は思っています。だからあそこは本当にほったらかしてある状況です。活用されていない状況ですから。いい意見だと思います。

山田勝委員

それはそれでね、お願いしたいと思います。それともう1つですね、私は道の駅、物産館ということについて、皆さんいろいろ議論が議会でも提案がありますけれどね、私は阿久根の大川の道の駅周辺にね、直売所とか物産館をつくろうなんていうのはね、それはもうしてはならないことですよ。その分、ここに必ず影響があります。それと、私は阿久根には年商100億以上あげるですねAZがあります。勝てませんここには誰も。それと合わせて、長島のだんだん市場はですね、非常にレートが高いですから、長島のだんだん市場は、この2市1町でね、仮につくるとしたら賛成するとは思いません。だから私は自分で物産館をやってみてですね、私の物産館については、私は金もうけをしようとは、これはわかっていただ

きたいんですが、平成16年か15年でしたかね、当時の市長に、物産館をつくったらどうかということで、私は提案しました。脇本周辺に1か所、折口周辺に1か所、田代県道周辺に1か所、そして阿久根市がやったらどうですかといったら、当時の市長はですね、市の大事な財源をもうけるか、もうけないかせんとにするわけにはいきませんとこう言ったから、それでは阿久根市はこのままではいかんと思ったからもう私は折口周辺に自分で始めたのです。これは自分の議会活動、議員活動の1つとして、誰か1人で、私がやることで、[「質問をしないと」発言するものあり。]質問じゃないんです。私は物産館をつくる、阿久根の道の駅を守らないかんちゅう角度で申し上げているんですよ。簡単にいくものではないんですよと、だからそういう広範囲な気持ちで質疑をしてくださいと、だから、この道の駅をあなたが言われる形で整備拡充されるのには賛成です。がんばってください。

岩崎委員長

はい、ほかにありますか。

白石純一委員

私もこの道の駅、もちろんさまざまな阿久根のさまざまな場所で物産館が繁盛することももちろんいいことです。今、この場所は一番阿久根らしい海を眺める、阿久根の宝とも言えるべき立地なので、これはやはり活用しない手はないということで、今、おっしゃられるようにこの空き地があれば駐車場に使うということもぜひ検討していきたいし、あと、私が一般質問で申し上げましたこの駐車場の上にですね、旧鹿児島本線のトンネルがございます。この駐車場からすぐ入れる場所です。このトンネルを抜けて2~300メートルでしょうか、歩いていきますと、抜けたところが尻無です。尻無には阿久根の七不思議の1つ尻無川の河口がございます。そちらに降りたところから今度は海沿いに道の駅のほうにやや、そこにもまだ空き地があります。ですから、尻無とこの道の駅をつなぐ海岸線の部分も空き地になっております。こういったところを遊歩道的にですね、回遊しながら道の駅を拠点としたこの観光につなげられるのではないかなということ参考意見として申し上げさせていただきたいと思います。

岩崎委員長

はい、ほかにありますか。

大田重男委員

今の白石委員の質問の中で、トンネルの話がありました。今、実際あそこのトンネルはですね、柵コーポレーションが使っていらっしゃるんです。結局果物とか自然の冷蔵庫として、それに使っておりますから、それだけは教えておきます。

白石純一委員

柵さんにもその話をしてですね、柵さんもぜひそういうことで使えるのであれば、協力したい。使いましょうということでした。

岩崎委員長

ほかにありますか。

[「なし」と呼ぶものあり。]

なければ、次に、山田勝委員の提案について、皆さんご意見ありますか。

濱崎國治委員

厳しくお伺いしたいと思います。あの、ラジオ体操の取り組みによる健康増進という非常に結構じゃないかなと思いますが、現在ですね、方言によるラジオ体操第1というCDが出てるんですが、鹿児島弁によるラジオ体操というのも中に入っています。そういうのを取り組まれるとか、それはお考えではないですか。

山田勝委員

それはですね、私はよく知らなかったんですが、非常に大変いいことだと思いますよ。

濱崎國治委員

大変ユニークでいいラジオ体操第1です。

山田勝委員

それはですね、大変私も力を感じているところです。そんなことで金のかからないですね、健康づくり、金のかからないふるさと創生をと思ってですね、このラジオ体操、老人のラジオ体操への取り組みについては提案したわけでありますので、どうか皆様もよろしくご協力ください。

中面幸人委員

もう本当にですね、これから高齢化が進む中でですね、介護費とか、医療費がふくらむ中でですね、本当に健康、健康にして長生きすると、できる、もう本当、この辺のですね、もうソフト面になるかですね、もう本当、こういうなんか地方創生に取り組みというのは相当市の財政面からしてもですね、大変いい取り組みになると思うんですよ。だからもうできればですね、もう少しいろいろ肉付けしていただいでですね、ぜひこれも創生にあげていただきたいのではないかと私は思っていますので大賛成でございます。

岩崎委員長

はい、意見ということでもいいですか。

竹原恵美委員

追加として、肉付けになるかと思う提案なんですけれども、以前その情報の番組がありました、奈良市で日本一介護保険が高いところと、奈良の中でその半額の介護保険の町との比較という番組があったんですけども、半額であるところは、理学療養士による体力づくりクラブがあるということで、介護の認定度の軽い人が多くいて、重い人が少ないということで、半額で出来ているという町があるという紹介がありました。阿久根では書いてあるとおりにいきいきクラブがありますけれど、その魅力、参加者ていうのをもっと取り込むことも必要だろうし、その中の活動がもっと体が1人でも自立していける、自立の生活ができるような方向に向けることができることができれば、さっきの提案の肉付けになるかと思えます。以上です。

岩崎委員長

意見ということでもいいですか。

[竹原恵美委員「はい」と発言あり。]

ほかに、ありませんか。

大田重男委員

ラジオ体操の取り組みなんですけど、私もこれは非常に賛成なんです。あるいきいきサロンの中でですね、このラジオ体操をですね、今防災行政無線がありますよね、体操の（聴取不能）として、防災行政無線を使ってですね、放送できないもんだらうかという話があったんです。あの、ラジオを聞いているちゅうのかな、外に持っていくラジオを持っていない人が多いんですよ。だから6時半の防災無線でですね、あれを流したらいかがかなと、そういう話もありました。

山田勝委員

実際するという、実行するという段階になったらですね、それぞれの、たとえば防災無線を各集落の公民館にあるところもあります。ないところもあります。だから具体的にどのようにやるかというのはその時点で考えればいいわけで、ただ、私はいろいろ、いきいきサロンがあったり、いろんな訓練があったりします。でも、このやり方はですね、老人が元気なうちから毎日、毎日通うことによってですね、老人が体調が悪くなる、あるいは障がいが出てくるというのをね、私は先におっしゃると思いますよ。そういうことで健康をいつまでも長続きさせるために毎日練習をさせる、ラジオ体操させる、そしてこう印鑑を打って与えてですね、一番沢山もらった人には市が一年に一遍、表彰をして何か簡単な記念品をやると、そしたら一番経費のかからない安い健康方法です。ぜひ、実現するようにご協力ください。

岩崎委員長

それぞれ、皆さんから提案を受けているものについて、これ実際にやるとなるいろいろな

細かい部分までの取り決めとか、いろいろやらないといけないと思いますので、それについてはまた後日、要望なり、市への提言なりを行っていけばと思います。

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

なければ、あと市の執行部のほうで原案を今作成中ですので、この案ができた時点で当委員会に提案をしていただけるといことで話を進めております。その執行部からの提案も見て、きょういただいた皆さんの意見等を参考にしながら次回を進めていきたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり。]

中面幸人委員

この調査委員会はずよ、当然執行部側と一緒にこうやっているという形の中です、1つは私はですね、やはり早く作成しなければならないと、すでに国はですね、早くそばの市町村ではもう9月中に作成が終わっているという段階です、国もですね、300億くらいですね、予算組んで、早く組み上がったところはですね、早く助成して、経済の活性化につなげていくという形も考えておりますのでですね、私たちがもう阿久根の場合です、聞くとところによれば執行部なんかの説明を受ければですね、12月まで、ことしの12月までにはとか、ある人によっては2月という声も聞こえてきたりしますからですね、このままだまってですよ、議会がですよ、ただ執行部があがってくるのを待つてするのか、ある程度尻をたたかないかんのかというところが私はあると思うんですけど、皆さんはどういうふうにお考えでしょう。

岩崎委員長

執行部のほうにはできるだけ早く案を示してくれるように、執行部のほうにはお願いをしておりますので、1日でも早く出してくださいというお願いをしてあります。それは、結論ではなくて、案の段階で出してください。執行部の案として提案してくださいということで、お話をしておりますので、その執行部の案と、きょういただいた皆さんの意見、ご提案と精査して、重複する分もあるかと思いますが、その中で議会として、ある程度の結論を出していきたいと思っております。それでよろしいですか。

中面幸人委員

もうその執行部の案が、素案が出てからということになるんですか。次の委員会は。

岩崎委員長

私はそういうふうに考えておるんですが。

中面幸人委員

皆さんの意見も聞いてみてください。

濱田洋一委員

先ほど、中面委員からもありましたとおり、12月末をめどに市のほうが策定を確定されるような見込みであると私も認識しているんですが、12月末といいますと、もうあと2か月強というようなことですが、執行部案が素案ということですが、出された時というのが1日でも早く委員長の方からもありましたけど、ある程度、たとえば11月の月にですね、第1段の素案を出していただきたい。たとえば11月の中旬ごろをめどにとかですね、そういう議会からの要望とか、ことをされた中で、最終、議会の合意を得て、市の執行部が確定できるめどに考えていらっしゃる12月末というのにですね、その時に確定できるような日程の決め方というかですね、その辺をもう一度ほかの委員の方にもお聞かせいただきたいと思うんですが、私自身は先ほども言いました、あと2か月強、ちょっとということですが、ですから、時間に余裕はございません。ですので、11月中に、たとえば11月の20日までに、仮にですけども、第1回の素案を執行部より提出をいただ

いて、それを元に議会のほうで執行部側から説明を受けて、第2回目のというふうに期間をある程度大まか、大枠ですね、設計されたほうが、事はスムーズに行くのかなというふうに私自身は思うんですが。

岩崎委員長

今、執行部と協議しているのは、1日も早く出してくださいよという話はしております。12月になってしまうと12月定例会も始まりますので、それ以前にはもう当然出していかないというふうに、今、話はしておりますが、ここでいつ提出をできるという日程は今、いただいておりますので、今後執行部のほうに厳しく日程を区切ってでもお願いしたいと思っておりますがいかがですか。

竹原恵美委員

それは、今言ったのは執行部のほうとのやりとりなんですけれども、今議会からの提案としては、今さらっと皆さんが提案したことを出して質問、やりとりしましたけれども、これをもう一段、肉付けしていくということも今せっかく共有した中でですから、もう一段肉づけを自分たちで調べて、1人が、誰か1人が出したものに対してほかの人が肉づけをしていくことで厚みを持たせた提案ができるのではないかと思います。というのが、高速道路であっても国交省がどこにつくるのかも調べなきゃねって言って終わってますし、最後の介護に対してもいろんな肉付けがこれからいるよねって言ってここで止めてしまうと、具体性がいま1つ、もう1つ提案としては、議会としては甘いのではないかと。自分たちでもっと具体性であったり、肉付けであったり、この16人の知恵をしぼったほうが、提案内容としては適したものにつくり上げられるのではないかとと思いますが、11月中にそういう動きを皆さんで調べてまた持ち寄る、このテーマに持ち寄ることはいかがでしょうか。

岩崎委員長

今、皆さんの提案、あるいは提案に対する説明等、意見等をお伺いしました。これについては、またこの分に限ってもう1回、もう少し煮詰めた議論をやるのか、あるいは、執行部からの素案が出た時点で中にはこの自分たちが出したものと重複する部分もあるかもしれないので、それらを含めてやるのか、別々にやるか、一緒にやるかということだと思っておりますがどちらのほうがいいですか。

仮屋園一徳委員

今委員長のほうで先ほど説明があった、その近いうちに執行部からの提案があるということで、その日程等がわからないと、どちらが先になるかわかりませんので、その執行部から出てくるのがいつごろになるのか、それをはっきりと聞いてあとは委員長が判断されて、どちらが先になるかをしたらいいんじゃないですか。

岩崎委員長

それでは、執行部の提案が、仮に今皆さんが懸念されておりますように、遅れるような場合があるとすれば自分たちのものをもう1回、自分たちのものだけをしっかりとやると、議論を行うと、もし執行部からの提案が11月中とか、早い段階で出るようでしたらその執行部案も参考にしながら次回を開催するというところでよろしいですか。異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり。]

それではそのように。

山田勝委員

してはよかいどん、私はね、たとえば、たとえばですよ、創生とかあるいは創生事業なんてのはね、阿久根の活性化が1日も早いほうがいいわけで、たとえば執行部から提案があがったものを議会で提案があがったものをですね、それをできるのであったら、金がかからないものについては来年度の予算に、ちっとなと来年度の予算を組んでできるものがあつたら1日でも早くしたほうがいいわけで、これはね。だから、何も結論が出てからというのではなくて、私はね、きょう提案した段階でそれなりのことをやっばり執行部は執行部にですね、委員長は報告するべきだと思いますよ。そうしないとね、結論は出ないと思いますよ。

ここで結論を出す話じゃないですから。こういう提案があります、提案ですから全部提案。

岩崎委員長

それにつきましては、皆さんから出たものについてはすべて執行部のほうにはこういうものがあつたということで、出してありますので、執行部もこれは確認はしていることだと思います。いいですか。

それでは、次の委員会の日程については執行部との協議等を含めて日程を調整したいと思いますが、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり。]

なければ、以上で本日の地方創生に関する調査特別委員会を散会いたします。ご苦労様でした。

(閉 会 13時34分)

地方創生に関する調査特別委員会委員長 岩 崎 健 二